文化人類学に見る
現代世界の信用と負債

非常事態宣言が解除されたとはいえ、自粛生活は、新たな日常化に！

最近は、会合はほとんどがオンラインになり、参加ネットワークから、→　新たなネットワークへと、、。

今日は上記のオンライン、ビデオ・オンデマンド会合に参加しました。

新聞に、文化人類学者の中根千枝さんの訃報がありました。
「タテ社会の人間関係」読まされましたねえ！← 田中陽児先生史学概論。

「現代世界の信用と負債」
今回は、文化人類学からのアプローチですが、経済学サイドからも「現代貨幣論」として話題になっているテーマのようですね。
現在は、商品貨幣論→現代貨幣論へ、
貨幣の価値論は、経済学　歴史学、考古学、においても科学的に、実証されている事象ではありません。

貨幣とは、負債の一種
貨幣の歴史は、　信用と金匠手形→ 貨幣の発生(預かり手形、負債の記録)→現代貨幣
銀行は、負債を契機に　信用貨幣を創造することができる
貸出しと預金の関係
負債と貨幣創造のしくみ
貨幣と租税　などからの説明

貨幣は、負債を前提に、価値信用を発生・生起させ、取引(交換)の連鎖を生みます。　商品貨幣論とは異質な説明になる

これが現代貨幣論 MMT のようです。

貨幣の価値論を前提とした経済政策、資本主義論を再度見直す、
すでに現実はそういう方向に進んでいるが、そんな状況が問題意識として見えてきました。

しかし、文化人類学の手法では、
「貨幣によっては計れない「他者を信じ、他者に負うこと」の多元性」が語られ、
人間経済とは何か、が語られる、面白そうです。
どんなオンラインシンポジュウムになるか楽しみです。

本日の「プログラム」
13:00- 開会の挨拶
13:05- 趣旨説明 佐久間寛（明治大学）「他者を信じ他者に負う：人類学から見る信用と負

債の世界」

第１部　「信用と貨幣」
13:30- 箕曲在弘（早稲田大学）「コーヒーの仲買人は高利貸しなのか？：ラオスのコーヒー産地における農家と仲買人の関係」
14:00- 小川さやか（立命館大学）「借りをまわすしくみとプラットフォーム資本主義ータンザニア商人を事例に」

14:30- 休憩

第２部　「暴力と負債」
14:45- 佐川徹（慶應義塾大学）「暴力の貸しを取り返す：東アフリカ牧畜社会における復讐／感染／代替の論理」
15:15- 松村圭一郎（岡山大学）「負債と労働の関係について：D．グレーバーの労働論」
15:45- 休憩
第３部　討論
16:00- コメント　土佐弘之（神戸大学）
16:10- コメント　片岡大右（慶應義塾大学）
16:20- 総合討論
16:55- 閉会の挨拶
一部を表示。

個人的な問題意識とは別にフィールドワークに根差した事象の解説、テーマの文化人類学から見る現代の信用と負債、大変、面白かったです。

(解説メモ)
・信用 credit
1、人の言動や物事を間違いないとして受け入れること
2、間違いないとして受け入れられる、人や物事のもつ価値や評判。「…がある」「…を落とす」「商売は…が第一だ」→信用がある→道徳的意味
3、英語の credit、人が他人を信頼することによって成り立つ。
　給付と反対給付との間に時間的なズレがある取引　→信用取引
　・負債
　「他から金品を借り受けて、返済の義務を負う

Debt
「道徳的義務と金銭的責務と言う２つに区別される意味」

今回は、「**社会的債務**(義務、負い目、借り)」と「**経済的債務**(借金、債務、ローン)」と区別し、**債務に焦点を当てる**

背景、
冷戦崩壊後の経済、情報、技術の発達に伴う金融システムの拡張は　→金融包摂
リーマンショック(2008)、欧州債務危機(2011)
→　不条理な状況の到来
→人間にとって負債とは、信用をめぐる問い直しへ

人文科学研究では、2010 ごろから**負債研究が進展**
N・サルトゥ=ラジュ「借りの哲学」(2012)←哲学
M・ラッツァラート「借金人間>製造工場」(2011)←経済
J・アタリ「国家債務の危機」(2010)←政治思想
F ・シェネの「不当な債務」(2011)

西欧近代的な債務観念の過度な一般化　→西洋と非西洋を同一地平でとらえる文化人類学の視座でとらえてみる。

文化人類学における債務研究
負債を請け負うことと、負債を弁済すること=ポトラッチ、贈り物の儀礼
ポトラッチ;北米先住民社会で行われていた贈与と消費の慣行
首長同士が膨大な財を送り合い、お互いの地位や名誉を誇示する　→贈与論

レヴィストロース　自然の側に負う=負債
「負債」と言う言葉はポポロ族における根源的な観念の１つ「モリ」の観念
住民が一人死ぬと、村は集団で狩りを催すが、自然に向けてのこの討伐行は、大きな獲物を一頭、なるべくならジャガーを射止めることを目的としおり、その皮、爪、牙は死者のモリを成すことになる」(1977 (**血漿**)

ルースベネディクト　菊と刀
恩は負債であって、返済しなければならない。
日本では報恩とは全く別な範疇に属するものと考えられている。
日本人は倫理学においてもまたオブリゲーション(義務・恩義)やデューティー(道徳・任

務)のような、どちらにも通じる語彙においでも、この 2 つの範疇を混同している。
　我々の道徳を危惧して感じる日本人にとっては「恩」と呼ばれる主要な、決して消滅することのない**債務**と、のっぴきならない**返済**とは全く**異なった世界である**。
人の債務「恩」は徳行では無い
返済がそうなのだ「恩着せがましさ」「恩を売る」←→「恩返し」

問題点
1、**記述語としての負債は分析概念ではない**
負債、支払い、弁済、貸付といった語彙を修正することとし、それを
贈り物として与えられたものとか、お返しに与えられた贈り物、といった言い方に置き換えてみる　→ポトラッチの信用の観念の機能についての正確な理解になる(モース)
むしろ、**互酬性**
　→何かしてもらったら、お返ししなければならない**規範**

2、**社会的意味の負債**　　×経済的負債
　負債状態＝社会関係
　負債の支払い＝関係のあらわれ
　支払いの性質＝関係の性質
　互酬的対等の支払い＝対等の地位～力の流れは、なし
　非対称的支払い＝不平等な地位～力は高い方から低い方へ流れる

　すべての負債の状態が社会関係を伴うに、すべての社会関係は負債の状態を伴う(リーチ)、、、構造主義的シェーマによる差異の一元化
　現金取引＝信用取引＝結婚(女性の交換)＝言語？？

　文化人類的負債は、恩や恩返し←→社会的負債、社会経済的負債を度外視してきた

3、**グレーバーの「負債論」:貨幣と暴力**の 5000 年
　1、コミュニズム、交換、ヒエラルキー
　　借りたお金は返さないと→モラルの言明→道徳・倫理→互酬性→解体→基盤的コミュニズムへ(能力に応じて)

　2、信用貨幣と鋳造貨幣
　　・社会的負債と経済的負債の相違

「ただの義務、あるいは誰かに何かを負っている(「借りがある」と言う感覚=「社会的負債」、

それと負債「=経済的負債」との違いとは、正確に言えば、何であろうか？

3、人間経済と商業経済
交換による等価性にまつわるすべて
贈与交換と商業的交換　→非人格性を伴い
交換＝負債ではない
負債が返済されない間、ヒエラルキーの論理が支配的になる。互酬性は存在しない

貨幣である負債と義務の違いは、負債が厳密に計量化できることである。
ただし、貨幣と「経済的負債」は、全く同時に登場する
経済的負債の歴史とは、必然的に貨幣の歴史でもある。

社会的負債と経済的負債の相違

二つの貨幣起源論
1、正統派経済学の金属主義、**貨幣商品説**
物々交換　→貨幣(鋳貨)　　→信用システム
、、、「神話」である。
2、異端派経済学の表券主義・貨幣信用説
信用システムは、効果的に数千年間先行して登場していた
、、、メソポタミア(前 3500～前 800 年)の粘土板の**記録**と言う考古学的根拠
、、、ただし、**信用を貨幣の支配と鋳造貨幣の支配の往還の歴史**でもある。

(歴史区分)
1、初期農耕帝国の時代(前 3500～前 800 年)…信用貨幣
2、枢軸時代(前 800 年～600 年)…鋳造貨幣、地金
3、中世(600～1450 年)…信用貨幣への回帰
4、大資本主義帝国の時代(1450～1971 年)…鋳造貨幣
5、現代(1971 年～)…負債の帝国
(グレーバー　2009 年)

なぜ信用貨幣は鋳造貨幣に代替されたのか？
地金の優位は、暴力の全般化する時代
ある１つの顕著な特性によって信用協定と区別される
盗むことができると言う事
定義上、**負債は信頼関係であり、さらに記録であるこれに対し、**
金や銀は**売り物と引き換えに受け取る**上で必要なのは、**尺度の正確さ**、金属の質、そして他の**誰かが受領する意思**を持つ見込みであって、**それ以上の信頼は不要**である。

…信用システムは、相対的に社会が平和な時代、ないし…信頼関係のネットワークを横断して支配的な傾向を持つが、
戦乱と略奪の蔓延する時代には、貴金属にとってかわるのである。

…現代はどちらの時代か？
　Ｄ・グレーバー「負債の帝国」より
・人間経済(ヒューマンエコノミクス)
　主要な関心が、富の蓄積でなく、人間存在の創造と破壊、再編成におかれる経済システム＝商業経済(→市場経済)

人間経済とは何か。負債論　第６章
・「商業経済」と「人間経済」
・「人間経済」とは、「**その主要な関心が、富の蓄積ではなく、人間存在の創造と破壊、再編成」にある社会**→人間経済
・「より素朴でユートピア的な「社会ではない
・人の命は、ものと交換しえず、別の人の命としか等価になり得ないし、究極的には他の命でも代替し得ないと言う原理が「神聖不可侵」

「社会的貨幣」としての財
・人間経済の定義に反する慣習
「婚資」夫側から妻側への財の移譲
「血償」殺害した側からされた側への財の移譲
・女性や人の命と物との交換「交換/代替」
・生産不可能な義務と負い目を相手に持つことを、公に示す財が「社会的貨幣」

　、、、、グレーバー、負債帝国論より抜粋解説

（発表、報告）

人間経済の商業経済への一体化

・人の命が「代替の原理」によって取り扱われる

・物理的な暴力やその脅威を用いて、人を「諸関係の網の目」から削ぎ取る

・奴隷は、生きながら「社会的に死んだ」存在何で売り買いできる

・人間経済が「より大きな**商業経済の軌道に突然一体化される」転機**

人間経済が支配的

　人間経済が商業経済に席を譲り、あるいは凌駕された時、何が起きるか？

　単なる義務がどのようにして負債に転化するのか？

　例えば、**社会的通貨**である

婚資、「花嫁代価」、夫側から妻側への財の移譲

　どのような支払いも不可能なほど、かけがいのない価値あるものを要求していることの承認

　女性への贈与に見合う支払いは、ただ一つ、別の女性の贈与のみ、

　それまでに、人ができることといえば、ただ、**未払いの負債を認知することだけ**である。

「血漿」の慣行、

　殺害した側から、された側への財の移譲

誰も自分の兄弟を殺害した男を報復、復讐することはできない。

　なにものも、その代替物にはなり得ない

、、、かけがえのない命を貨幣によって数値化し、代替可能なのもものにしてしまう経済とは何か？

数値化され、代替可能なものとしての人間とは何か？

女性や人の命と物との「交換／代替」

売買される奴隷

　人間経済において、何かを売ることができるようにするには、

まず、それを文脈から切り離す必要がある

　奴隷には母も父もどのような親族もいない。

　だからこそ彼女たちは売り買いもできたし、殺害することさえできた。

　なぜなら、彼女たちを保持していた唯一の関係は、自らの所有者たちとの関係だったから、

　奴隷にするには、継続的で、組織的だった大量の暴力が必要なのである。

清算不可能な義務と負い目を相手に持つことを、公に示す財(社会的貨幣)

現代の債務奴隷制

　歴史を参照することに意味があるとすれば、仮想通貨の時代とは、
戦争、帝国の構築、奴隷制、負債懲役制度の離脱でなければならず、
かつ、地球的規模にわたる債務者保護の制度の構築に向かわねばならないはずである。

　ところが、私たちはこれまで、それとは反対の事態を経験してきた。

　新しい世界通貨は、古い世界通貨以上に、軍事力にしっかりと根付いている。

　負債懲役制度は、以前労働をグローバルに徴用する主要原理である。

　東アジアやラテンアメリカでは、まさに字義どおりにそうである。

　賃労働者やサラリーマンであるような人々のほとんどにとっても、主観的な意味ではそうである。

　と言うのも、彼らは自分たちがあくせく働かねばならないのは、何よりもまず利子付きローンの支払いのためと感じているからである。

　新しい輸送と通信のテクノロジーが、それを促進した。

　つまり家事使用人や工場労働者たちに数千ドルもの交通費を支払わせ、法的保護のない遠い国で借金を返済させるべく働かせることができるようになったのである。

復讐を管理・廃絶したい国家、反発する人々

外的な圧力による「代替の原理」の導入に伴う葛藤

・復讐の慣習の広がり

国家は復讐を「私的な暴力」として管理廃絶を試みる

・賠償制度(管制血漿)への反発

・20 世紀前半ケニアの英国植民地政府等による決勝制度(家畜の授受)を拒否した人々

シンポジュウムの主旨

「負債論」の視座を踏まえつつも、商業経済が全面化したかのように見える現代世界において、社会的な信用・負債が経済的な信用・負債とせめぎあっている現実に着目し、そこから生じる関係性の多元的なダイナミズムを文化人類学的に考察こと、人間経済の先端において他者を信じ他者に負うことの可能性を見つめ直すこと。

(感想)

貨幣によっては計れない「他者を信じ、他者に負うこと」の多元性」が語られていました。

信用と貨幣

　農家と仲買人の関係

　借りを回す仕組みなど

　アフリカ　ラオスのフィールドワークの報告

暴力と負債

　暴力の貸しを取り返す

　復讐／感染／代替の論理」

負債と労働

　D. グレーバーの労働論」

４時間以上のオンライン配信、ちょっときついですが

家にいるだけ楽と言えば楽です。

配信環境も最後にフリーズしましたが、なんとか無事に終了しました。

お疲れ様でした。

概要をまとめてみたいと思います。